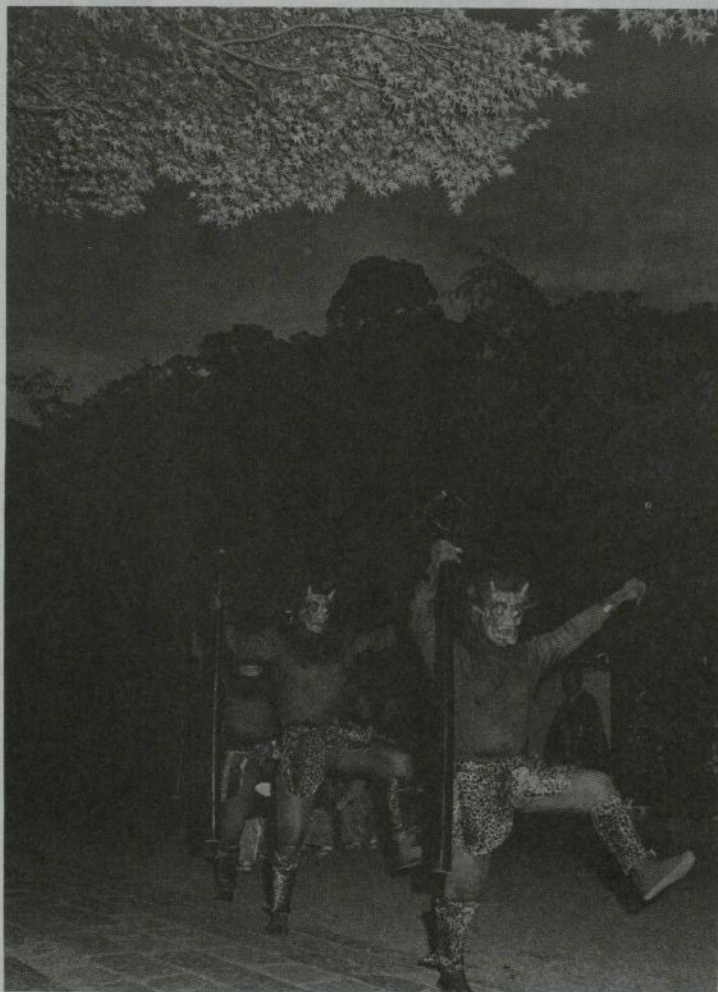


No. 269

全仏

6 / 56



「青鬼ほたる祭」(石山寺)

—解説8面にあります—

生命の尊厳を

つい先日新聞に、またまた、悲惨としかいいようのない事件が報じられた。

占いにこったある主婦が、二人目の子供の誕生日が、最初の子供の誕生日と同じ日であったという理由で、自分の腹を痛めた二人の子供を、自らの手で息をとめたというのである。

いまここで、占いの是非を論ずる気はさらさらない。

動物の世界では、自分の子を殺し、食べてしまう例は数多くあるという。万物の霊長たる人間も、動物とまったく同じということなのであろうか。

おそらくこの主婦は、その時精神錯乱状態にあったと想像されるが、それにしても、あまりにもむごたらしい、生命を軽視する事件

が多すぎる。

今さら申すまでもなく、仏教ほど、生きとし生けるものすべての生命の大切さを訴えている宗教は他に例をみない。

人の心が、昔とくらべてそんなに大きく変わっているとも思えない。お互いさま、兜の緒を締め直して、精進しようではありませんか。(I)

全日本仏教会

笑顔もどるカンボジア難民

〓 サケオキャンプを訪ねて 〓 全仏国際部長 鎌田 良昭

雨期に入ったタイは蒸し暑い。五月六日、私は全仏からカンボジア難民救援金伝達の使命をうけて、東京プディストクラブの旗本宏昌、坂本観晃の両君と共に成田空港を後にした。

五月七日午後、私たちはWFB本部事務総長のブラサート氏らと、タイ・カンボジア国境に近い、サケオ難民収容所へと向かっていた。見事に舗装された国道を、車は北西へ疾走する。首都バンコクから、約二五〇キロにあるバンキャン村のサケオキャンプには、約三万人のカンボジア難民が収容されている。広大な土地はタイ政府が提供したのだが、キャンプ内は国連が管理し、外部はタイ陸軍が警備にあたっていた。

唯一の仏教奉仕団

タイ領内にはサケオの他、カーブチャーン、カオイタン、カンブットなどの難民収容所があり、カンボジアばかりではなく、ラオス人などを収容するところもある。このサケオキャンプには、一年半ほど前から、世界でただ一つの「仏教奉仕団」として、わが国から曹洞宗の救援隊がきていて、炎暑の中、常任して救援活動を展開している。頭の下がる思いだ。

この代表者、松永然道師は、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）発足と同時に、バンコク駐在事務所長とし



て赴任し、日本とタイを往復して、苦況に喘ぐ幾多の難民の世話をされている。赴任当初のキャンプの状態は、おびただしい難民が、何もない野原に、折り重なるようにしてゴロゴロと寝ていた。そして飢餓や悪疫で、毎日数十人の人々が

死んでいったという。また同時に、心のすさみよけはひどく、放心したような、ウツロな状態であったようである。

まずワット建設

松永師らは、難民たちの殆どが仏教徒であるところから、まず寺の建設が急務と考え、竹造りのワット（寺）を建設、ついで教育部門を担当して現在に至っている。数多くの教科書や絵本を購入し、それをタイ語からクメール語に翻訳し、今は、バンコクで印刷してユネスコなどの助けを得て、キャンプ地へ配布、借出している。これらの翻訳は、かろうじて生き残ったクメール人比丘や、教員などの協力で行われている。JSRCが建てたキャンプ地内にある図書館では、今や印刷用輪転機が回り、クメール人の青年男女が、教科書などの製本や校正に余念がなかった。

これとは別に、WFBY（世界仏教青年連盟・在バンコク）の提唱で、実施されているタンマヤトラプロジェクトチームも、全日本仏教青年会や、タイ仏青年の教次に亘る積極的援助や、現地救援活動で、大いに成果をあげていることも見逃せない。

サケオキャンプに見るかぎりでは、難民たちはようやく落着をとりもとどしたよう、ワット（寺）をたずねた我々を、笑顔をもって合掌で迎えてくれた。折しも夕方の動行が始められ、本尊に向かって礼拝している彼等は、ようやくつかんだ平和をシンボライズするかのよう、実になごやかな表情で美しい。突然、一人の中国系クメール人が寄ってきて、さかんに漢字を書いて訴える。それによると、彼は広東が出生地でカンボジアに移住し、共産兵に兄弟、妻、子供をすべて殺されたと涙をうかべて筆を走らせていた。

ゼロからの出発

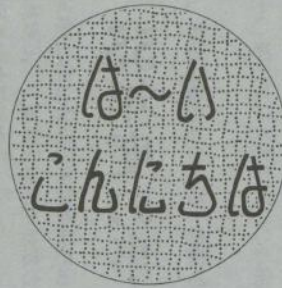
何もかも失ってしまった難民たちも、仏さまを礼拝することから、心の安寧を得、文字どおりゼロからの出発をはじめている。私たちは一日も早く、カンボジアの内乱がおさまり、彼等が祖国へ再び帰れるよう念じつつ、この地に別れを告げた。

なお現在までに、わが国の浄土真宗本願寺派をはじめ、真言宗豊山派、臨濟宗妙心寺派、天台宗、浄土宗その他の宗派から、また個人的にも多額の救援金が贈られているが、なお一層の救援が求められる現状であることを、ここに記しておきたい。救援金送付方法については、全仏国際局へご照会願いたい。

なお、今回全仏に寄せられた四万ドル（約八百万円）は、五月八日に、バンコクのWFB本部で、サンヤWFB会長代行に手渡したことをご報告いたします。

誓願ノートのある寺

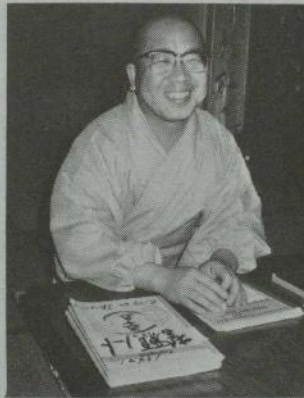
嵯峨野・阿弥陀寺



＝③＝

校内暴力、親殺し、暴走族……、最近のマスコミに登場する若者のイメージは、あまりかんばしくない。しかしそうした彼らも、きわめて真摯な一面を持ち、受験に恋に人生に悩み、自己を見つめている。それを雄弁に物語っているのが、もう五十六冊を数える「誓願ノート」だ。さっそく京都に、嵯峨野・阿弥陀寺を訪ねてみた。アンソング族で、すっかり有名になった嵯峨野。その片隅に阿弥陀寺（浄土宗）はある。住職は「ユーモア和尚」を自称する長澤普天師（四十五歳）。掃き清められた本堂の一隅に、誓願ノ

トは置かれていた。そしてノートを見下すように安置されている。若き法然上人を形どった求道青年像。実は、二メートルあまりのこの像こそ、誓願ノートが生まれるきっかけとなったものである。長澤師は語る。

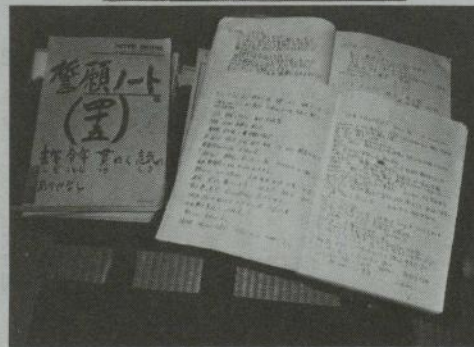


「もう十五年ほど前、像の建立を思いついた私は、『求道誓願紙』を奉納してもらい、それを像の中に入れることにしたのです。すると、願いごとばかりでなく、悩みなど、実に様々なことが書かれていました。中には裏まで書いている人もいます。そこでノートにしては、と考えたわけです」
今でも、像の横に「求道箱」が置かれ、誓願紙を入れられるようになってきているが、ほとんどの若者がノートに向

かうという。

俺だけじゃない
みんな悩んでるんだな
みんな願ってるんだな
みんなガンバレ！
俺だけじゃないんだな！！
（みんなと同じように生きてい
る一人の人間）

長澤師がもっとも感動した一文であ



る。表面的には物質的で、世に甘えてみえる現代っ子も、多くは悩みをかかえ、身近に話せる人も持っていない。そこで、ガイドブックにもないこの寺を、全国からはるばる訪ねてくる。ノートを見ると、二十五歳以下の、学生・OL・会社員などがほとんど。男女は半々。書かれる内容は、最近に

なるほど、具体的、深刻になってきたという。何度も何度もくり返しやってく人も多い。そして、黙って書き、静かに去っていく。

また来てしまいました
ここしか来る所がないんです
ここしか心のやすらぐ所がないんです
です
（店員、十九歳）

もちろん中には、ふざけ半分のものもあるが、一方で遺書めいた一文もあり、長澤師をあわてさせた。実は師自身、悩める若者だった。今こそ、浄土宗布教師、京都刑務所教誨師、仏教芸能鑑賞会の主宰者と、活動範囲もきわめて広いが、在家生まれの長澤師がそもそも得度したのは、失恋で大学を中退したためだという。自ら悩んだからこそ、同じように悩む若者が、他人事とは思えない。

「この寺には、ゆきすりの人は来ません。皆さがしがしやって来ます。世に悪人なし、悪縁あるのみ、というのが私のモットー。せつかくやってきた若者を、良い縁へと導くのが、僧侶の努めだと思っています」
現代っ子と仏教を結ぶ接点を考える時、このノートは何かのヒントになるのではないか。

【写真は長澤住職と下が誓願ノート】

全仏の理事会ひらく

55年度決算などを審議

全仏理事会は、五月二十六日午後一時より、東京グランドホテルにて開催。齋理事長挨拶のあと議事録署名委員を選出、昭和五十五年度事業報告などについて審議した。(詳細は次号)

議案第一号「昭和五十五年度事業報告の承認を求める件」

議案第二号「昭和五十五年度歳入歳出決算の承認を求める件」

議案第三号「機構改革特別委員会答申に伴う寄付行為改正の承認を求める件」

議案第四号「ルンビニ一復興問題推進について承認を求める件」

議案第五号「刊行誌・全仏第三種認可に関する指導に伴う関連事務規定新設の承認を求める件」

議案第六号「事務所移転に伴う寄付行為の一部変更の件」

報告事項①「同和委員会報告について」
報告事項②「第二十八回全日本仏教徒会議について」

55年度の事業報告

国際親善、文化交流促進など

1、加盟団体相互の連絡・提携および親睦

4・1 浄土真宗本願寺派伝灯奉告法要

10 仏教讃仰会花まつり出席

21 機構改革特別委員会

5・5 高幡不動尊五重塔落慶法要出席

13 監査会

19 機構改革特別委員会

24 理事会

6・10 勝又俊教先生叙勲祝出席

27 機構改革特別委員会

7・4 鳴門仏教会創立五十周年記念大

会出席

8 仏教讃仰会都民お盆まつり出席

8・8 清水谷大僧正老周忌法要参列

26 山形県仏教会十周年大会出席

27 機構改革特別委員会

9・3 財務担当者会議(京都)

5 財務担当者会議(東京)

6 岐阜県仏教会檀信徒大会出席

9 妙心寺派花園会創立三十周年記念式典出席

11 常務理事会・宗務総長会

17 仏教伝道ビル落慶式出席

29 醍醐寺・醍醐天皇一千五十年遠

忌法要参列

10・3 埼玉県仏教徒会議出席

9 大阪府仏教徒会議出席

14 臨済宗建長寺派管長晋山式出席

20 長野県仏教徒会議出席

23 機構改革特別委員会

27 真言宗豊山派管長就任祝出席

31 全日本仏教婦人大会出席

11 理事会・評議員会

12 長谷寺化主晋山式参列

12・11 黄檗宗管長晋山祝賀会出席

1・14 埼玉県仏教会新年会出席

26 全日本仏教婦人連盟修正会出席

2・6 理事会・評議員会・宗務総長会

全仏新年懇親会

13 伊東堅純師葬儀参列

3・16 梶浦逸外師葬儀参列

17 仏教伝道賞贈呈式出席

2、仏教教化運動の総合的企画および促進

毎月一回「全仏」誌発行

「花まつりボスター」等の普及

5・10 文化専門委員会

6・10 仏教文化会議運営委員会

7・8 仏教文化会議運営委員会

8・22 第13回全日本仏教文化会議

1・30 文化専門委員会

3・12 各宗派教化担当会議

3、諸官庁および関係諸団体との連絡

4・22 日宗連理事会出席

5・19 日宗連理事会出席

6・13 WCRP委員会出席

7・10 日宗連理事会出席

9・27 日宗連理事会出席

10・2 文化庁宗教法人等管理者研究協議会出席

19 日宗連理事会出席

12・4 WCRP十周年記念祝賀会出席

15 日宗連理事会出席

1・21 文化庁宗教法人等管理者研究協議会出席

26 日宗連理事会出席

2・21 仏教英語研究会スピーチ・コンテスト出席

3・6 WCRP委員会出席

26 IBECL理事会出席

30 日宗連理事会出席

4、各種仏教運動の実践および育成

5・16 全仏センター設立準備委員会

19 国際専門委員会

29 同和特別委員会

6・12 組織専門委員会

7・9 全仏大会準備委員会

21 国際専門委員会

8・25 東北ブロック会議

9・12 同和特別委員会

16 全仏センター設立準備委員会

27 国際専門委員会

10・21 全仏大会幹事会

31 都道府県仏教会代表者会議・全仏大会幹事会

11・1 第二十七回全日本仏教徒会議

6 同和特別委員会

12・3 ガールド氏講演会

6・12 国際人権シンポジウム参加

15 収益事業範囲改正対策委員会

(以下8面へつづく)

昭和55年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書

歳入 予算額 金61,133,000円 決算額 金61,458,700円
 歳出 予算額 金61,133,000円 決算額 金59,605,217円
 歳入歳出決算剰余金 金1,853,483円

歳入の部

項 目		予 算 額	取 入 済 額	対 子 算	
款	項 目			取 入 超 過 額	取 入 未 済 額
1. 負担金		57,033,000	54,904,000		2,129,000
	1. 各宗派負担金	50,849,000	49,852,000		997,000
	2. 各団体負担金	6,184,000	5,052,000		1,132,000
2. 寄付金		1,200,000	800,000		400,000
3. 未納徴収金		500,000	1,564,000	1,064,000	
4. 基金果実		900,000	956,400	56,400	
5. 雑収入		500,000	651,845	151,845	
6. 繰越金		1,000,000	2,582,455	1,582,455	
歳 入 計		61,133,000	61,458,700	325,700	

歳出の部

科 目		予 算 額	支 出 済 額	○増 △減 流 用 額	予 算 不 要 額	付 記
款	項 目					
1. 事務総局費	1. 人 件 費	39,300,000	39,274,889	0	25,111	
		25,650,000	25,355,232	△ 294,768	0	
		11,150,000	11,150,000	0	0	
	1. 職 員 俸 給	12,000,000	11,863,991	△ 136,009	0	第3項へ流用
	2. 諸 給	1,700,000	1,541,241	△ 158,759	0	第3項へ流用
	3. 厚 生 費	800,000	800,000	0	0	
	4. 退職積立金	6,150,000	5,611,987	△ 512,902	25,111	
	2. 事 務 費	2,400,000	2,400,000	0	0	
	1. 借 館 借 室 費	1,500,000	1,460,170	△ 35,097	4,733	第3項へ流用
	2. 通 信 費	350,000	343,422	0	6,578	
	3. 消 耗 品	450,000	81,750	△ 368,250	0	第3項へ流用
	4. 光 熱 費	300,000	286,200	0	13,800	
	5. 備 品 費	700,000	632,192	△ 67,808	0	第3項へ流用
	6. 印 刷 費	450,000	408,253	△ 41,747	0	" "
	7. 諸 雑 費	2,500,000	3,650,670	○ 1,150,670	0	第1項第2目より136,009円流用 " 3 " 158,759 " 第2項第2目より35,097円流用 " 4 " 368,250 " " 6 " 67,808 " " 7 " 41,747 "
	3. 旅 費	2,000,000	2,000,000	0	0	第5項より343,000円流用
	4. 関西事務局費	3,000,000	2,657,000	△ 343,000	0	第3項へ流用
	5. 渉 外 費	4,900,000	4,717,853	0	182,147	
2. 総務局費	1. 会 議 費	1,600,000	1,496,353	0	103,647	
		500,000	490,483	0	9,517	
	1. 理 事 会 費	200,000	170,470	0	29,530	
	2. 評 議 員 会 費	300,000	246,480	0	53,520	
	3. 各 種 委 員 会 費	600,000	588,920	0	11,080	
	4. 諸 会 議 費	3,000,000	2,954,017	0	45,983	
	2. 共 通 事 項 処 理 費	300,000	267,483	0	32,517	
	3. 調 査 研 究 費	5,500,000	6,005,479	○ 505,479	0	
3. 組織局費	1. 組 織 強 化 費	3,500,000	3,411,169	△ 88,831	0	
		1,000,000	932,249	△ 67,751	0	第2項へ流用
	1. 組 織 強 化 費	2,500,000	2,478,920	△ 21,080	0	第2項へ流用
	2. 国 内 仏 教 徒 会 議 費	2,000,000	2,594,310	○ 594,310	0	第1項第1目より67,751円流用 " 2 " 21,080 "
	2. 時 局 対 策 費	9,300,000	9,064,996	0	235,004	
4. 国際文化局費	1. 国 際 運 動 費	3,800,000	3,656,737	0	143,263	第6款より505,479円充当
		1,800,000	1,787,963	0	12,037	
	1. W F B 関 係 費	700,000	648,000	0	52,000	
	2. 国 際 仏 教 文 流 費	1,300,000	1,220,774	0	79,226	
	3. 渉 外 費	1,200,000	1,153,450	0	46,550	
	2. 文 化 会 議 費	900,000	853,450	0	46,550	
	1. 文 化 会 議 費	300,000	300,000	0	0	
	2. 紀 要 作 成 費	400,000	395,750	0	4,250	
	3. 教 化 諸 費	3,900,000	3,859,059	0	40,941	
	4. 機 関 紙 発 行 費	133,000	42,000	0	91,000	
5. 雑 費		2,000,000	500,000	△ 505,479	994,521	第3款第2項へ 505,479円充当
6. 子 備 費						
歳 出 計		61,133,000	59,605,217		1,527,783	



= ⑩ =



制限される観光客

昨一九八〇年を通じて、チベットは世界的関心の的であった。中共政権がダライ・ラマの帰還を要請し、それに伴う種々の政策転換を敢行したことや、またそれに対するダライ・ラマの応諾が拒否かを探る予測が、その中心をなすものであ

った。

毛沢東の死後、中共政権は急激に自由化を促進して来たが、その一環として、チベット地区を三十年に近い閉鎖より門戸開放に転換せしめた。かくして、チベット観光は昨年、一挙にそのピークを迎えたのである。

しかしながら、チベット入境は厳しく制限されている。昨年十一月、現地ラサで聞いたところによれば、今年の許可人数は、政府関係者を入れわずかに五百人程度、従って海外訪問客はせいせい二、

チベット仏教の現状 (上)

市村 承 秉

三百人に減少させられるのではないかといわれていた。日本の仏教徒も、昨年旅行団を編成し、その第一陣を入境せしめたが、第二陣から打ち切られてしまった。ところが、米国の一旅行社は総数十回を超える観光団を送りこんでいる。

幸い著者は、その第十一団に飛び入りし、十一月一日より一週間にわたってラサを始め、その周囲の寺院や、公共施設コミュニティ等、見学することができた。我々仏教徒にとってチベットの宗教事情は、その政治や社会事情以上に、関心の持たれるところである。限られた紙数な

がら、気付いた諸点を略述してみたい。

三千六百呎の高地

一行は香港に集合、汽車で広州に向かい、ここより中国大陸中西部に位する、四川省の首都、成都にとび、ここより更に真西へ二時間飛行の後、ラサ空港へ到着した。ラサ市は空港の西北、川ぞいに車で二時間の距離にあり、高度は富士山の頂上なみ、機外に降り立つと軽く眩暈を覚え、身体的動作は本能的に緩慢となり、心臓の鼓動は激しく耳たぶに打ち続

ける。これはラサ滞在を通じて経験されたもので、環境順応の準備なく、一挙に三六〇〇メートルの地点に降り立った一行には、当然であった。

高山病とよく似ているが、危険な肺水腫病のあることを知る人は少ない。これは三〇〇〇メートル以上の高度で、酸素欠乏をその直接原因として起こり、血清が気胸中に漏れ入し、酸素交換の効率を急激に低下せしめ、すみやかに酸素補給を行わぬ限り、死に至るものである。

困ったことに、いかなる体質や身体的状況に起り易く、またいかなる予防法や

薬品効果があり得るか、また医学的に知られていない。十二時間乃至三十六時間以内に罹病せねば、まず大丈夫。しかし現地の宿舎には酸素補給の用意があり、ラサ市には政府の特別病院もあり、中国人医師が待機しているから、ことある時には躊躇なく入院すべきである。

写真撮影には料金

チベット観光の魅力は、ダライ・ラマのポタラ宮殿及びその離宮の拝観を頂点とし、旧ラサ市の中心をなすジョーカーンそして市外にあるセーラ及びドレポンの三大寺院の見学にある。しかし、観光行程は完全に中国々営旅行社の支配に規定され、北京中央本部より派遣されたガイドは広州より常時随行し、現地到着後はラサ支局代表が、一切の企画を立て引率する仕組みとなっていた。

写真撮影について直接禁止されることはないが、寺院参観中、仏像、壁画、内陣等、宗教的象徴や芸術対象の撮影には十元(約千五百円)乃至二十元の料金が一々要求され、無制限に撮りたい時は、二百元の大金を支払わされるのである。これは香港の一出版社が、チベット入境の初め、いち早く徹底的な写真グラフィックを出版して、大もうけたという事例に対する処置であるという。中共側からすれば資本主義根性に対する反発乃至懲罰なんだといいたのであろう。(つづく)

【写真はポタラ宮殿に拝登する巡礼】

ルンビニー開発委員長

全仏を訪問

去る五月二日、ルンビニー開発委員会委員長ロック・ダルシャン氏と、シユレシユタ在日ネパール大使が、全仏事務総局を訪問した。

ロック・ダルシャン氏は、国連のルンビニー開発勸募委員会 (FUND RAISING COMMITTEE) 出席の往路、訪れたもので大使と共に、ルンビニー開発のための日本側の体制作りを、早急に進めるよう訴えられた。

全仏から、勝部組織局長、兼田国際部長他が、ルンビニー開発の現状、国連のこの計画に対する参画状況などを質問す

ると共に、全仏側のこれまでの対応を説明した。

鈴木総理と懇談会

宗教団体代表者

去る五月十五日(金)午前十一時よりホテルオークラにおいて、鈴木善幸総理と、宗教団体代表者との懇談会がもたれた。この会には、仏教、キリスト教、神道の代表三十五団体、約四十人が総理より招かれた。

総理と、宗教団体代表者とのこの種の会合は、初めてのことであり、今後、こうした会合が随時もたれることは、宗教団体にとっても、有益なことだと思われる。当日、総理は、挨拶の中で、宗教者

の果たす社会的役割に大いに敬意を表されることにも、今後も、懇談会を持ちたいとの意向を表明された。

当日、全仏関係者の出席は、以下の通り。曹洞宗・大島恭龍永平寺監院、浄土真宗本願寺派・立原郷音楽地本願寺輪番、浄土宗・小口輝雄総務局長、日蓮宗・塩田義朗宗務総長、高野山真言宗・橋爪良寛東京別院主監、臨濟宗妙心寺派・後藤純一宗務総長、天台宗・山田恵諦座主、真言宗豊山派・久保竺太清宗務総長、念法真教・長谷川靈信教務総長、全仏事務総局・中村昌之財務部長。(順不同)

文化専門委員会開く

昭和五十六年度第一回の文化専門委員会は、去る五月七日(木)開催された。

同和推進のために

③ 同和委員会委員長

橘 了法

同和問題から一歩も退げぬということとは、われわれの常套語「不退転」をこの身に実証すること以外にない。

不退転の又の名を不惜身命という。人は人と人との間柄において人間でありうる。人間が自らのいのちを尽くして同和になりきる——つまり差別することによって人間を分析し、見失ってきたまともないのちの回復がありえてこそ初めて全き人間となりうるであらう。

五濁の衆水海に入りて一味といひのちの平等を説く仏法に属しつつ、なぜ差別者となり、差別教団となりはてたのか。

個人の尊厳性の追求を抛棄して世俗の権力機構に奉仕する国家仏教に変容したところにはじまる。

いうまでもなく、仏法行儀の真骨頂は、「菩薩戒経」に言う「出家の人の法は、国王に向かいて礼拝せず、父母に向かいて礼拝せず、六親に務えず、鬼

神を礼せず」としてある仏法の原初に帰る以外にない。

人を差別して「屠児は神国に住むといえども神孫にあらず、故に神祭ることならず」というこの国の神道思想もさることながら、教団並に教団に属する仏教者が今日までいかに仏教から程遠いところに転落していたか。

同和問題は行政において対策であったも仏法者にとっては絶対に相対的な対策問題ではなく、自らの起死回生の必須課題であることの認識と体感、もう論議のときではない。

(タイトルが不適切でしたので、お詫して今月号より訂正いたします)

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)
電話 代表 (841) 4965

文化部執行五十五年度事業の反省、並びに五十六年度事業全般について、活発な討議がなされた。

昨年度、五年ぶりに再開された、各宗派教化担当者会議については、内容をさらに検討のうえ、各宗派の意見交換、情報交換の場として、五十六年度も、企画することが話し合われた。

日本仏教文化会議については、八月二十八日、二十九日の一泊二日、昨年同様、生産性研修会館を使用し、開催することが協議され、主題は、運営委員会において十分話し合うこととなった。

機関紙「全仏」についても、内容について種々、建設的な注文が出た。配布方法なども、問題点が指摘され、六月中をめどにその具体策を急ぐこととなった。

スリランカ文化大臣 の来日歓迎会ひらく

仏教事情、大臣が講演

去る四月二十八日、増上寺において、フルーレ・スリランカ文化大臣夫妻の来日歓迎会が、全仏の主催で行われた。

今回の大臣来日は、日蓮宗七百年遠忌等に参列されるためであり、連日のハードスケジュールの中を、定刻の午後二時元気な姿をお見せになった。藤井実広法主の出迎えを受けた後、大殿で礼拝、献花。その後、レセプションの行われる地下大ホールへ向かった。

レセプションでは、日野全仏事務総長の歓迎の辞につづいて、大臣自身が「スリランカの仏教事情」というテーマで講演を行い、またスリランカの仏跡に関する

る映画が上映されるなど、なごやかな一時を持たれた。

事務総局録事(五月)

- 三日 神奈川県へ
- 七日 文化専門委員会
- 十一日 局内会議

全仏の関西事務局 が移転 智積院内へ

全仏の関西事務局は、これまで妙心寺内にありましたが、五月十日より、真言宗智山派総本山・智積院内へ移転しました。【新事務所】京都市東山区塩小路通大和大路東入東瓦町九六四、電話・〇七五一五四一―一五三六一

＝表紙の写真＝ 「青鬼ほたる祭」

(石山寺)

石山寺中興の祖・朗澄律師は、今から八百五十年前前死にのぞんで、自分は青鬼の姿となって、徳を慕う人々のために降魔招福を誓う、という遺言を残した。以後地元民は、朗澄律師の命日に当たる六月十四日、盛大な法要を営み、師をしのんで、青鬼の面をかぶって踊ったと伝えられる。

戦後は、青鬼ほたる祭と呼ばれるようになり、毎年六月の第二土曜の夜、盛大に挙行されている。この日のために、石山寺山門には身長五メートル、体重約一トンというキングサイズの鬼が作られ、また地元青年団が青鬼に扮し、縫いぐるみをかぶって踊る「青鬼踊り」は大変ユニークな奉納踊りとして有名。この夜、同時に三千匹のほたるが放たれる。本年は六月十三日(土)、午後七時から行われる。

14日 監査会

北海道仏総会出席

15日 十大宗派管長、総理と懇談

ルンビニー特別会議

18日 ルンビニー特別会議

確認糾弾会

20日 確認糾弾会

21日 同和特別委員会

21日 同和特別委員会

22日 局内会議

26日 理事会

55年度事業報告(続き)

- 12・18 税務対策委員会
- 19 同和特別委員会
- 1 16 同和特別委員会
- 2 2 全仏センター設立準備委員会
- 5 同和特別委員会
- 9 同和拡大実行委員会出席
- 3 2 解放同盟全国大会参加
- 17 同和問題にとりくむ全国宗教者結集会参加
- 5、各国のWFBセンターおよび各国仏教団体との連絡
- 7 31 WFB執行委員会出席
- 10 30 WFB大会代表団打合せ
- 11 22 第13回世界仏教徒会議タイ大会参加
- 6、仏教および仏教徒による国際親善および文化交流の促進
- 4 15 ルンビニー復興準備委員会
- 5 16 ルンビニー復興準備委員会
- 10 9 スリランカ首相歓迎会
- 1 14 ルンビニー復興準備委員会
- 2 13 ルンビニー視察
- 3 9 ルンビニー復興準備委員会

宗教界には最もゆかりの深い菩提樹と蓮の花を育ててみませんか!!

成道ゆかりの樹……菩提樹(印度ブッタガヤ産直輸入品) 苗代¥10,000(鉢付)
極楽浄土の華……蓮(チャワンバス通称姫蓮) 苗代¥7,000(鉢付)

お申込方法

お申込先 } 有限会社 かたばみ商事 <〒460> 名古屋市中区大須三丁目39番33号(大須本町通交差点北東側)
お問合先 } TEL大代表 ナゴヤ <052> 241-0901番
尚数量に限度がありますのでお早目にお申込み下さい。(品切れの際はご容赦の程を)
配布月日は蓮は開花の関係上56年5、6月頃、(蓮のお申込み締切日は6月30日とします。)
菩提樹(インド)は日本の風土に馴れさせる為に秋期に予定致して居ります。
菩提樹、蓮とも同時にご予約注文を受け承りました時は特別価格¥15,000(菩提樹 ¥9,000+蓮 ¥6,000)にてご奉仕させていただきます。但し、それぞれに発送月日が違いますので送料は別々に申し受けさせていただきます。

昭和五十六年 六月一日発行
六月号 第二六九号

発行人 日野照正
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七―四
電話〇三(四三七)九七五